kikusui

TECHNICAL DATA

仕上げの種類	外壁用塗膜防水材
製品名	透湿弾性タイル・ＲＥ 凹凸状・凸部処理状模様（吹付け工法）

プライマー：　カチオン形アクリル樹脂エマルション系下塗材
「キクスイ 浸透性プライマーＥ」

外壁用仕上塗料：　水系弾性アクリルシリコン樹脂塗料
「透湿弾性シリコントップ」

第 2 版　　作成日：　　2020 年 4 月 24 日

菊水化学工業株式会社

公共建築改修工事施工仕様書

1．仕上げの種類

外壁用塗膜防水材塗り

2．製品名

透湿弾性タイル・ＲＥ（凹凸状凸部処理）

外壁用仕上塗料：水系弾性アクリルシリコン樹脂塗料「透湿弾性シリコントップ」

3．適用範囲

既存の仕上塗材塗り仕上げ等を改修する場合及びコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に外壁用塗膜防水材塗りを行う場合に適用する。

4．材料

プライマー：	キクスイ 浸透性プライマーＥ		NET	15kg/缶入
アクリルゴム系塗膜防水材：	透湿弾性タイル・ＲＥ ベース	〔主材〕	NET	18kg/缶入
		〔硬化剤〕	NET	0.15kg/缶入
模様材：	透湿弾性タイル・ＲＥ 模様	〔主材〕	NET	18kg/缶入
		〔硬化剤〕	NET	0.15kg/缶入
外壁用仕上塗料：	透湿弾性シリコントップ		NET	16kg/缶入

5．下地

5.1 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整

既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」平成 31 年版第 4 章 外壁改修工事の 4.8.3 既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整に準ずる。

5.2 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に外壁用塗膜防水材塗りを行う場合の下地調整は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」平成 31 年版第 4 章 外壁改修工事の 4.8.4 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル仕上げ外壁等の下地調整に準ずる。

6. 工程

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (h) (23°C 50%RH)	所要量 (kg/㎡)
プライマー	キクスイ 浸透性プライマーE 主材：　15 kg 無希釈	エアレススプレー ウールローラー等	1	3 以上	0.1 以上
下地挙動緩衝材 (注)1	―		1	―	0.5 以上
増塗材	透湿弾性タイル･ＲＥ ベース 主材：　18 kg 硬化剤：　0.15 kg 清水：　0.3～1.0 L	はけ等	1	3 以上	0.5～1.0
アクリルゴム系 塗膜防水材	透湿弾性タイル･ＲＥ ベース 主材：　18 kg 硬化剤：　0.15 kg 清水：　0.3～1.0 L	リシンガン 口径：5～6 mm 吹圧：0.5～0.6MPa	2 (注)2	18 以上 工程内 3 以上	1.9 以上
模様材	透湿弾性タイル･ＲＥ 模様 主材：　18 kg 硬化剤：　0.15 kg 清水：　0～0.4 L	タイルガン 口径：6～8mm 吹圧：0.2～0.3MPa	1	18 以上 凸部処理 1 以上 (注)3	0.7 以上
凸部処理(注)3	プラスチックローラーに塗料用シンナーをつけて均一に押える。			―	―
外壁用仕上塗料	透湿弾性シリコントップ 主材：　16 kg 清水：　0.8～1.6 L	エアレススプレー ウールローラー等	2	工程内 2 以上	0.25 以上

注１　下地挙動緩衝材の適用は特記による。

注２　塗り回数は、製造所の指定に準じる事が規定。

注３　凸部処理は､凸部処理状模様の場合のみに行う。

7. 工法

7.1 材料の練混ぜ

(1) プライマーは、希釈せずハンドミキサーで均一にする。

(2) アクリル系塗膜防水材及び模様材は、主材と硬化剤を定められた比率で混合し、ハンドミキサーなどで均一にする。その後、定められた模様に対する所定の粘度に調整するよう指定量の清水を加え、均一に薄める。また、混練後の可使時間は8時間(23℃)なので、時間内に使い切ること。

(3) 外壁用仕上塗料は、指定量の清水を加え、ハンドミキサーで均一に薄める。

7.2 プライマー

(1) プライマーは、だれ及び塗残しのないように均一に塗り付ける。

7.3 下地挙動緩衝材

(1) 下地挙動緩衝材の適用は特記による。ひび割れ幅は0.2mm以上2.0mm未満とする。

7.4 増塗り

(1) 増塗りは、はけ又はローラーにより、防水材塗りに先立ち、あらかじめ 0.5～1.0kg/㎡を端部に段差のないように塗り付ける。なお、増塗りを行う部位は、出隅、入隅、目地部等の膜厚が薄くなりやすい部位、開口部回り等のひび割れが発生し易い部位、下地の動きが激しい部位等とする。

7.5 アクリル系塗膜防水材塗り

(1) 防水材塗りは、所定の厚みが確保できるように、2 回塗りとし、だれ、ピンホール及び塗残しのないよう下地を覆うように塗り付ける。

7.6 模様材塗り

(1) 模様材塗りは、見本と同様の模様で均一に仕上がるように、指定する塗装条件を用いて塗り付ける。

7.7 凸部処理

(1) 凸部処理は、見本と同様の模様になるように模様吹き後、1 時間以内の適当なときを選んで行う。

7.8 外壁用仕上塗料塗り

(1) 外壁用仕上塗料は、2回塗りとし、色むら、だれ、光沢むら等が生じないように均一に塗り付ける。

8. 材料の取り扱い

(1) 施工者は、材料の受入れ検査を行う。

(2) 材料の保管にあたっては、直射日光を避け低温時において凍結しないように注意する。

(3) 材料は使用に先立ち、材料の分離などについて検査を行い、異常が認められた場合は使用してはならない。

(4) 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はＳＤＳ（安全データシート）を参照のこと。

9. 施工時の養生

(1) 外装仕上げ面においては、塗り付け作業前に直射日光、風及び雨を防ぐためシート掛け養生を行う。特にパラペットと足場の間には雨が吹き込まないように覆いをかける。

(2) 夏季に屋外で施工する場合は、急激な乾燥を防止するため、シート類、ポリエチレンフィルムなどで覆う。

(3) 工事中は、周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう適切な養生を行う。

10. 施工時の気象条件

(1) 施工場所の気温が5℃以下、湿度が85％以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがあるので、施工を避ける。

(2) 外部の施工で降雨、降雪の場合又はそのおそれのある場合及び強風時は施工を避ける。

11. その他の注意事項

(1) 一般事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）」平成31年版第4章 外壁改修工事の4.1.3 施工一般及び4.8.2 外壁用塗膜防水材仕上げに準ずる。

(2) 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないように注意する。

(3) 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがある。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行うこと。

※本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにしてください。

成 分 表

下塗材：　キクスイ 浸透性プライマーＥ

内容	重量（%）
変性アクリル樹脂エマルション	100.0
計	100.0

塗膜防水材：　透湿弾性タイル・ＲＥ ベース（主材）

内容	重量（%）
アクリルゴムエマルション	64.3
白色及び体質顔料	32.7
添加剤	3.0
計	100.0

：　透湿弾性タイル・ＲＥ ベース（硬化剤）

内容	重量（%）
エポキシ樹脂	100.0
計	100.0

模様材：　透湿弾性タイル・ＲＥ 模様（主材）

内容	重量（%）
アクリルゴムエマルション	63.7
白色及び体質顔料	32.3
添加剤	4.0
計	100.0

：　透湿弾性タイル・ＲＥ 模様（硬化剤）

内容	重量（%）
エポキシ樹脂	100.0
計	100.0

外壁用仕上塗料：　透湿弾性シリコントップ

内容	重量（%）
アクリルシリコーン共重合樹脂エマルション	63.0
白色顔料	16.1
水	8.7
添加剤	11.7
防藻・防カビ剤	0.5
着色顔料	適宜
計	100.0

性 能 試 験 成 績 書

仕上げの種類	建築用塗膜防水材（外壁用塗膜防水材　アクリルゴム系）
商品名	透湿弾性タイル・ＲＥベース
供試材料	下塗材：キクスイ 浸透性プライマーＥ 主　材：透湿弾性タイル・ＲＥベース
試験方法	JIS A 6021－2011 外壁用塗膜防水材 アクリルゴム系に準拠

項目			性能	結果
引張性能	引張強さ N/mm²	試験時温度　23℃	1.3 以上	2.6
		試験時温度 －20℃	1.3 以上	6.7
		試験時温度　60℃	0.40 以上	2.0
	破断時の伸び率　%	試験時温度　23℃	300 以上	550
	破断時のつかみ間の伸び率　%	試験時温度　23℃	180 以上	357
		試験時温度 －20℃	70 以上	152
		試験時温度　60℃	150 以上	275
引裂性能	引裂強さ　N/mm		6.0 以上	14.0
加熱伸縮性能		伸 縮 率　%	－1.0 以上 1.0 以下	-0.7
劣化処理後の引張性能	引張強さ比 %	加熱処理	80 以上	133
		促進暴露処理	80 以上	133
		アルカリ処理	60 以上	103
	破断時の伸び率　%	加熱処理	200 以上	260
		促進暴露処理	200 以上	250
		アルカリ処理	200 以上	290
伸び時の劣化性状		加熱処理	いずれの試験片にもひび割れ及び著しい変形があってはならない。	異常なし
		促進暴露処理		異常なし
		オゾン処理		異常なし
付着性能	付着強さ N/mm²	無処理	0.70 以上	1.7
		温冷繰返し処理	0.50 以上	1.2
耐疲労性能			いずれの試験体にも塗膜の穴あき・裂け・破断があってはならない。	異常なし
たれ抵抗性能		たれ長さ　mm	いずれの試験体も 3.0 以下。	0.0
		しわの発生	いずれの試験体にもあってはならない。	異常なし
固形分　%		主　材	表示値（68）±3.0	67.9
		硬化剤	表示値（58）±3.0	60.0

＊上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではございません。あらかじめご了承下さい。